

8. 沖縄県那覇市現地調査実習

藤田 尚希

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習」、大学院生科目「地理学演習」では、沖縄県内の市町村から任意の自治体を選択したうえで、当該自治体の現地調査をすることを慣行としている。沖縄県を選択しているのは、歴史や文化が大きく異なる地域の調査を経験することで、沖縄の特性を知ると同時に、京都や地元の特性についても理解が深まることが期待されるからである。今年度は、新型コロナウイルス感染症が流行する以前に実施した2019年度以来、4年ぶりに5泊6日で実施し、さらに3回生による個人調査も復活した。

1. 今年度の調査概要

調査地は3回生が相談して決めることにしており、今年度は沖縄県の県庁所在地である那覇市が調査地として選ばれた。調査概要は以下の通りである。

調査日：令和5年6月21日～26日

調査員：上杉和央（教員）、奥谷三穂（共同研究員）、廣野勝・藤田尚希・山下悠衣奏（3回生）、岩本悠梨・上田龍摩・永田秀悟・西真歩・廣澤俊祐（4回生）、松岡茉陽琉（博士前期課程1回生）、王一冰（研究生）

今年度の調査では、那覇市内に現存する沖縄戦に係る慰霊碑と慰霊祭の調査を実施した。調査の実施にあたっては、学生の参加者10名を3班に分け、数がおおよそ均等になるように調査担当の慰霊碑を各班に担当させた。また、3回生は那覇市の歴史や文化、生業に関する個人調査も実施した。個人調査のテーマは以下の通りである。

- ・廣野勝 戦後から現代の小禄地域における土地利用の変化と農業の実態についての調査
- ・藤田尚希 首里地域の文化祭「琉球王朝祭り首里」の歴史の変遷についての調査
- ・山下悠衣奏 かりゆしウェアの普及過程や若者への定着度についての調査

本調査の実施に際し、那覇市歴史博物館学芸員の伊集守道様、また、お忙しい中聞き取りに応じていただきみなさまには大変お世話になりました。末尾ながら感謝申し上げます。なお、これらの調査成果は『2023年度地理学実習調査報告書 那覇市』として刊行の予定である。



写真1 慰霊祭の様子(首里真和志町)

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
